

自然環境改善への課題は

基本的認識の啓発を充実

問 地球規模で温暖化防止が叫ばれる中、当町も

昨年6月に「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」を行った状況下、まず、宣言達成に向けた脱炭素社会への取り組み状況と課題を問う。

策定委員会で意見をいた

だき計画の素案を作成。この素案へのパブリックコメント募集を11月30日から12月20日まで実施している。

また、来年2月に募集予定の環境省の脱炭素先行地域づくり事業への応募の準備も進めている。

答 宮川 住民課長

当町の地球温暖化対策実行計画の策定状況は、これまでに温室効果ガスの排出量や森林吸収量などの基礎調査を行ない、その結果を基に実行計画

今後の取り組みの課題は、住民への普及、啓発や、町全体のCO₂排出の現状把握と、その後の施策、取り組みの効果測定などが考えられる。

さらに、電力でのCO₂排出が多いため、再生エネルギーへの転換など多くの課題がある。

これらの課題を解決すべく、令和5年度から7年度がCO₂削減に向けた基盤づくりとして、現状把握や効果測定の仕事

づくり、また体制づくりを考えている。その後、令和8年から12年にかけて、本格的な地域への再生エネルギーの導入や、具体的な省エネ対策を進めていきたいと考えている。

問 EMやくろしお元氣AIなどを活用した自然環境改善の取り組み状況と課題は。

また、循環型の社会を目指し、地域住民の「エコの輪」を上げ、環境について楽しく学べる場の創設は出来ないか。

答 宮川 住民課長

取り組み状況としては引き続き家庭や河川、水路、漁港、プールなどへの利用が継続中と認識。課題としては、水質改善の声を聞く一方、県などの公的な支援がないことが考えられる。

家庭から流れ出る生活排水が、例えば、合成洗剤に含まれる界面活性剤等が石油由来で自然界では分解されず、環境に与える負荷が想像以上に大きいとの認識の不足。

その対策として、環境改善に役に立つEM菌や元氣AIなどの使用で、石油由来の合成洗剤などの使用を減らす活動の啓発不足を感じている。

まずは町内での環境改善の取り組みなどについて、今後も広報などを活用し、啓発に努めていく。

また、循環型社会を考

社会福祉協議会のチャリティーショップ「ぐるりん」(保健福祉センター)

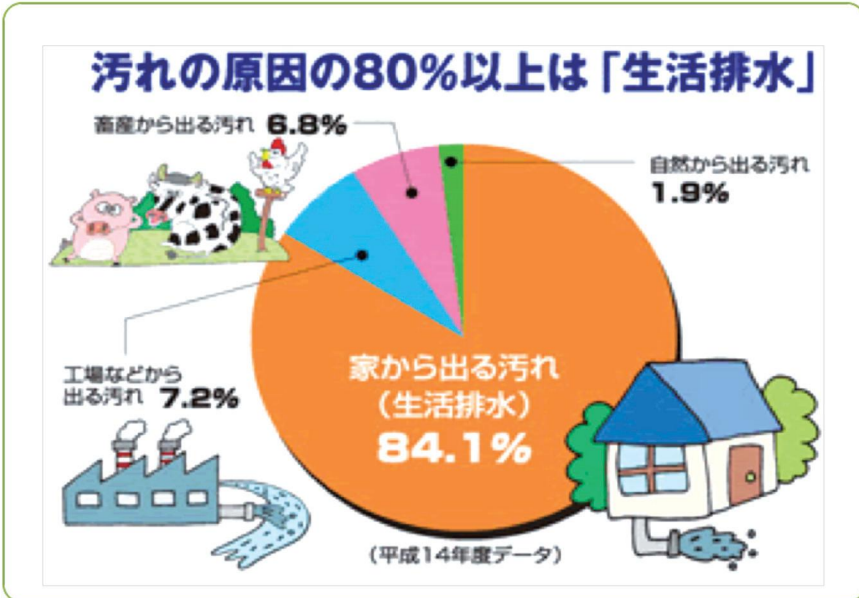


町内の学べる場としては、社会福祉協議会主催の「ぐるりん」がある。

本人には不要なもので、必要とする方は必ずいるとして、その間を取り持つて輪を作るという意味だと考えている。

これはリユースにもゴミの減量にもつながる素晴らしい企画だと思う。

今後もそういった取り組みを紹介しながら、この輪を広げていけるように啓発に努めていく。



H25年2月開催の黒潮町環境改善講演会「台所はエコへの入口」より